



ある時、戦争に負けて貧乏になった人がいた。その人は大変な努力と苦勞の結果、小金持ちになった。そこで駅から遠いところに若くして自社ビルを建てた。友人は皆、すでに戦後が終わり、あなたは貧乏ではない、と言ってくれた。

その人はその

悲劇の最大資産家パラドックス

第一に世界の経済繁栄を維持するよ

して資産を独占し、町の歴史上最大の資産を作った。その結果、町で最高の場所に誰も持ち得ないほどの広さの土地と資産を手に入れた。誰もが、わが町の歴史で最大の飛びぬけた資産家だと絶賛した。最高の資産家は幸

さて、その成功者であり町最

政策発想の転換が必要だ。飛びぬけた資産家が、資産家であり続けられる条件は二つある。

後、十年にわたって努力と苦勞を重ね、高度成長を成し遂げ、町で十指に入る大金持ちになった。そこで町の中心に近いところに自社ビルを買い替えた。町の人は皆、その人を有数の成功者だと言った。

大の資産家が、どんな成功者もう賢明な投資をし、新しい事業を育て続けること。第二に資本市場を銀行や政府で独占せず、薬市薬座にし、多様で競い合う市場を育て維持すること。いずれも日本は怠って来た。

（日本テクノロジープベンチャー
パートナーズ投資事業組合代表
村口 和孝）

その人は努力と苦勞をさらに十年続け、ライバルを全部つぶ

その人とは誰か。お察しの通り、一戦後の日本の大企業や大